

第12回癌・炎症と抗酸化研究会(CIA 研究会)

ランチョンセミナー

抗がん剤脱毛に対する治療戦略

開催日時 2022年11月19日(土) 12:30 ~ 13:20

会場 ホルトホール大分
3F 大会議室

司会

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史 先生

演者①

**抗がん剤脱毛病態に基づく治療戦略
—毛包周囲環境への多角的アプローチ—**

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス]
准教授

河野 洋平 先生

演者②

消化器がん患者の脱毛と α リポ酸誘導体の有用性

医療法人八宏会有田胃腸病院 副院長
大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス]
客員准教授

平塚 孝宏 先生



演者①

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス]
准教授

河野 洋平 先生

▶ 抗がん剤脱毛病態に基づく治療戦略 — 毛包周囲環境への多角的アプローチ —

がん治療の進歩により、罹患後の生存期間が延長し、働きながら外来通院治療を継続する患者も増えた現代において、脱毛をはじめとする外見の症状に対するケアは従前にも増してその研究の重要性と社会的な意義が高まっている。これまで我々は抗がん剤脱毛皮膚における病態の解明や、抗酸化物質 α リポ酸誘導体の脱毛に対する有用性を報告してきた。今回、これまでの基礎・臨床研究結果に基づく新しい治療戦略を提唱する。

我々は動物モデルにおいて抗がん剤投与後の皮膚毛包周囲環境を観察し、血管透過性の亢進による抗がん剤の毛包周囲への漏出と続発する酸化ストレス・アポトーシス誘導を示した。一方、現在抗がん剤脱毛に対し臨床応用されている頭皮冷却は抗がん剤投与時の血管を収縮し血管透過性亢進を制御しうる。

また、我々が注目する抗酸化物質 α リポ酸誘導体の継続的経皮投与は酸化ストレスとアポトーシスを制御し、回復を早める。これらの作用点が異なる治療により効果的に脱毛を制御する治療戦略を検討するため、今回、抗がん剤投与後皮膚への皮膚冷却と α リポ酸誘導体経皮投与の効果について血管透過性に及ぼす影響を中心に評価した。

本研究ではシクロフォスファミド誘発脱毛モデルを用いて検討し、皮膚冷却法および α リポ酸誘導体経皮投与とも、脱毛後回復の促進および血管透過性亢進の抑制が観察され、また α リポ酸誘導体はシクロフォスファミド誘発血管内皮細胞アポトーシスも抑制した。今回、皮膚血管透過性の制御は脱毛治療における重要なポイントである可能性を示した。今後のより効果的な治療開発への発展を期待する。

略歴等

【略歴】

2001年 3月 大分医科大学医学部卒業
2001年 5月 大分医科大学外科第一(研修医)
2007年 5月 大分大学医学部 消化器・小児外科 医員
2012年 3月 大分大学医学部 博士課程 修了
2016年 4月 豊後大野市民病院 外科部長
2017年 4月-2022年 6月 大分大学医学部 消化器・小児外科
高度救命救急センター 助教
2018年 1月-2019年 8月 米国Weill Cornell Medicine
Visiting Fellow

2022年 7月 大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス] 准教授

【主な学会活動】

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本内視鏡外科学会 技術認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

MEMO



演者②

医療法人八宏会有田胃腸病院 副院長
大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス] 客員准教授

平塚 孝宏 先生

▶ 消化器がん患者の脱毛と α リポ酸誘導体の有用性

抗がん剤脱毛(CIA)に対する十分な予防法はなく、そのメカニズムも完全には解明されていないなか、大分大学は株式会社アデランスとの産学連携プロジェクトとして、 α リポ酸誘導体含有頭皮用ローション「Media α 」を開発し、臨床試験において乳がん患者のCIAの回復促進効果が示された。一方、消化器がん患者におけるCIAはその程度が軽度とされ、注目されてこなかったものの、消化器がん患者のCIAによる精神的苦痛は乳がん患者同様に存在し不安も大きい。

我々は胃がん、大腸がんに対する抗がん剤治療患者において、Media α を使用し、CIAの肉眼的評価、頭髪直径に及ぼす影響を調査した。切除不能な進行胃がんに対するnabPTX+RAM、IRI、CapeOXを含む化学療法患者において、nabPTX+RAMを受けた患者ではグレード2の脱毛は観察されず、頭髪直径の有意な減少は観察されなかった。またIRIを受けた患者の最大脱毛グレードは2であったが、IRI中止後1か月で発毛と直径の拡大が観察された。一方、S-1、SOX \pm BV、FOLFIRI+Cet、FOLFOX+Cetを含む切除不能な進行性大腸がんに対するCIA患者の最大脱毛グレードは1であり、S-1、SOX \pm BVを受けた患者の頭髪径は有意に増加した。

α リポ酸誘導体含有頭皮用ローションは、消化器がんのCIA抑制効果が期待され今後のより効果的な治療法開発がのぞまれる。

略歴等

【略歴】

2001年 3月 大分医科大学医学部卒業
2001年 5月 大分医科大学医学部附属病院(研修医)
2013年 3月 大分大学医学系研究科 博士課程
医学専攻 卒業
2014年10月 大分大学医学部 消化器・小児外科
高度救命救急センター 助教
2017年 2月 米国Weill Cornell Medicine Visiting Fellow
2019年 1月 大分大学医学部 消化器・小児外科 助教
2020年 4月 有田胃腸病院 副院長
2022年 7月 大分大学医学部 先端がん毛髪医療開発講座
[アデランス] 客員准教授

【学会専門医・資格】

日本外科学会:指導医・専門医・認定医
日本消化器外科学会:指導医・専門医
日本消化器内視鏡学会:指導医・専門医
日本大腸肛門病学会:専門医
日本腹部救急医学会:認定医

【受賞歴】

中塚医学賞2016年

【特許】

抗炎症性腸疾患剤:公開番号2012-214416